

2016年度 決算説明会

2017年5月17日
三菱ガス化学株式会社

2016年度 トピックス

中期経営計画 MGC Advance2017 基本方針	2016年度の取り組み
中核事業を中心とした既存事業の収益力強化	➤ トリニダード・トバゴでのメタノール・DMEプロジェクトの推進 ➤ メタクリル酸グリシジル(GMA)の増強決定(自動車向けトップコート向け等に需要好調) ➤ 特殊ポリカーボネート(PC)の生産能力を増強(モバイル機器向けカメラレンズ用途で需要好調) ➤ 福島県・相馬港における天然ガス火力発電事業への参画 ➤ メチルアミンに関わる経営資源を新潟工場に集約、装置を更新
不採算事業の再構築	➤ 日本サーキット工業(株)の解散

2016年度 トピックス(続き)

中期経営計画 MGC Advance2017 基本方針	2016年度の取り組み
新規事業の創出と育成	➤ 事業戦略室の設置(M&A検討の加速と新規事業の事業化戦略の推進) ➤ 日本化薬(株)との合併で、バイオ後続品を含む抗体医薬品の製造会社を設立 ➤ QOLイノベーションセンター白河の設置（2017年4月竣工）
グループ全体の経営効率改善	➤ 事業経営単位(BMU)導入に向けた取り組みを継続
(その他)	➤ 自己株式の取得（2016年5月、1,000万株、発行済株式数の2%） ➤ 単元株式数の変更(1,000株→100株)及び株式併合(2株→1株)を実施（効力発生日：2016年10月1日）

連結 2016年度 損益計算書

【単位：億円】

	2015年度 実績	2016年度 実績	増 減		2016年度 前回予想*
			金額	%	
売上高	5,935	5,564	▲ 370	▲6.2%	5,400
営業利益	340	437	97	28.6%	390
(持分法利益)	(166)	(210)	(43)	-	(190)
(その他営業外損益)	(▲ 52)	(▲ 24)	(28)	-	(▲ 30)
経常利益	454	623	169	37.3%	550
(特別損益)	(4)	(▲ 13)	(▲ 17)	-	(▲ 20)
税金等調整前当期純利益	458	610	152	33.2%	530
(法人税等)	(70)	(76)	(▲ 5)	-	-
(非支配株主持分)	(46)	(54)	(▲ 8)	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	341	479	138	40.5%	410

一株当たり当期純利益(円/株)※1	153.85	221.57
R O E (%)	9.0	11.9
為替レート (JPY/USD)	120	108

*2017年2月3日公表

為替影響：売上高▲329億円、営業利益▲75億円、経常利益▲99億円

※1 当社は、2016年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

連結 2016年度 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

	2015年度	2016年度	増 減
営 業 外 損 益	114	186	72
持 分 法 利 益	166	210	43
金 融 収 支	2	8	6
為 替 差 損 益	▲ 38	▲ 12	26
そ の 他	▲ 16	▲ 21	▲ 4

- 持分法利益
天然ガス系化学品+14
(メタノール市況上昇等)
機能化学品+15
(PC/POM関連会社の利益増加)
特殊機能材+12
(新たに2社が持分法適用)

特 別 利 益	41	25	▲ 16
補 助 金 収 入	3	10	7
投資有価証券売却益	34	7	▲ 26
固 定 資 産 売 却 益	1	5	4
受 取 補 償 金	-	2	2
そ の 他	2	-	▲ 2
特 別 損 失	▲ 37	▲ 38	▲ 1
減 損 損 失	▲ 15	▲ 11	4
固 定 資 産 圧 縮 損	-	▲ 9	▲ 9
事 業 撤 退 損	-	▲ 8	▲ 8
関 係 会 社 整 理 損	▲ 11	▲ 6	4
そ の 他	▲ 11	▲ 2	8

- 為替差損益
2015年度:期末の円高、人民元/タイバーツ安により為替差損が発生
- 投資有価証券売却益
15年度/16年度ともに政策保有株式の売却により発生

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

2016年度連結業績（サマリー）

＜2016年度業績概要＞

- 円高の影響があったものの、エンジニアリングプラスチックスを中心に原燃料安等による採算改善などがあり、営業利益は増加。（前期比+97億円）
- メタノール市況は下期に入り上昇。海外メタノール生産会社の持分法利益は前期を上回った。エンジニアリングプラスチックス関係会社の持分法利益も増加し、経常利益は増加。（前期比+169億円）
- 経常利益及び当期純利益は、過去最高益を更新

連結 2016年度 貸借対照表

【単位：億円】

科目	2016年 3月末	2017年 3月末	増 減	科目	2016年 3月末	2017年 3月末	増 減
流 動 資 産	3,412	3,266	▲ 145	負 債	3,164	2,648	▲ 515
現 預 金	840	750	▲ 90	買 掛 債 務	608	685	76
売 掛 債 権	1,364	1,384	20	有 利 子 負 債	1,814	1,187	▲ 627
棚 卸 資 産	1,001	946	▲ 54	そ の 他	742	776	34
そ の 他	206	186	▲ 20				
固 定 資 産	3,983	4,149	166	純 資 産	4,231	4,767	536
有 形 固 定 資 産	2,305	2,180	▲ 124	株 主 資 本	3,732	4,165	433
無 形 固 定 資 産	87	83	▲ 3	その他包括利益累計額	36	115	78
投資その他の資産	1,590	1,885	294	非 支 配 株 主 持 分	461	486	24
資 産 合 計	7,395	7,416	20	負 債 ・ 純 資 産 合 計	7,395	7,416	20
				自 己 資 本 比 率	51.0%	57.7%	
				一株当たり純資産(円/株)※	1,707	1,984	

※当社は、2016年10月1日付で株式併合（2株→1株）を実施しており、本資料の一株当たり純資産（円/株）は、当該株式併合を反映しております。

連結 2016年度 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2015年度	2016年度	増 減
営 業 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	846	827	▲ 19
税金等調整前当期純利益	458	610	152
減 価 償 却 費	267	256	▲ 10
持 分 法 利 益	▲ 166	▲ 210	▲ 43
持分法適用会社からの配当金受取額	186	122	▲ 64
運 転 資 金 等	109	100	▲ 9
法 人 税 等 支 払 額	▲ 8	▲ 52	▲ 43
投 資 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	▲ 319	▲ 311	8
設 備 資 金	▲ 286	▲ 314	▲ 28
投 融 資 資 金 等	▲ 33	2	36
フ リ ー キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー（差引）	527	515	▲ 11
財 務 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	▲ 473	▲ 602	▲ 128
借 入 金 ・ 社 債 増 減 等	▲ 332	▲ 469	▲ 137
自 己 株 式 取 得	▲ 74	▲ 62	11
配 当 金 支 払 額	▲ 66	▲ 69	▲ 2
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 22	▲ 0	22
現金及び現金同等物の増減額（合計）	31	▲ 86	▲ 118
現金及び現金同等物の期末残高	758	671	▲ 86

連結 2017年度 業績予想

【単位：億円】

	2016年度 実績	2017年度 予想	増 減		2017年度 中計
			金額	%	
売上高	5,564	5,800	235	4.2%	7,000
営業利益	437	370	▲ 67	▲15.5%	400
(持分法利益)	(210)	(200)	(▲ 10)	-	-
経常利益	623	550	▲ 73	▲11.8%	550
税金等調整前当期純利益	610	550	▲ 60	▲9.9%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	479	430	▲ 49	▲10.3%	-

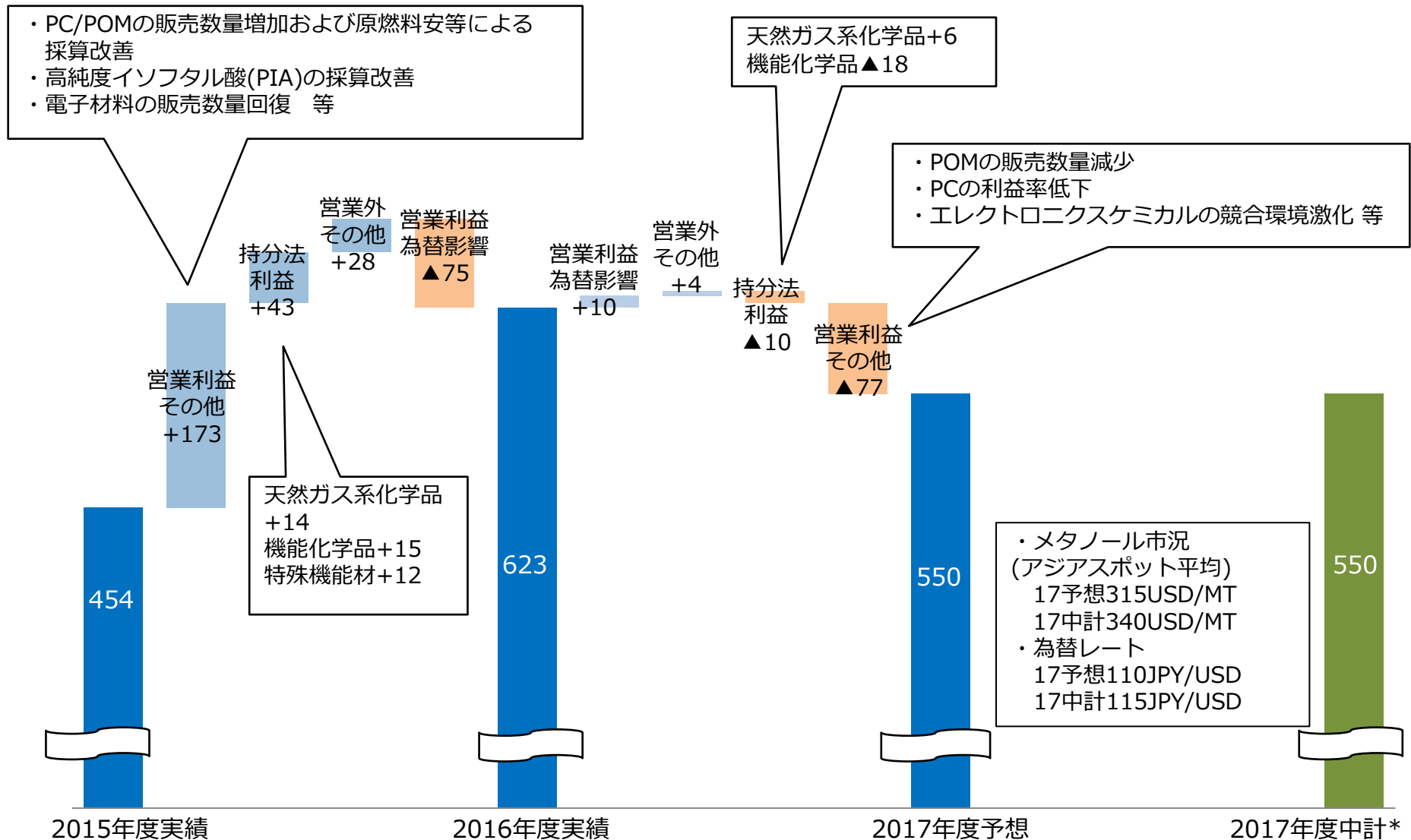
一株当たり当期純利益(円/株)	221.57	199.24	※1	-
ROE (%)	11.9	9.7		9.0以上
為替レート (JPY/USD)	108	110		115

➤ ポリアセタール(POM)の販売数量減少、ポリカーボネート(PC)の利益率低下が想定されることに加え、米国・台湾を中心としたエレクトロニクスケミカルの競合環境激化などもあり、減益を予想

※1 当社は、2016年10月1日付で株式併合（2株→1株）を実施しており、本資料の一株当たり当期純利益は、当該株式併合を反映しております。

※2 2015年5月公表 中期経営計画「MGC Advance 2017」より

経常利益増減要因



<参考> 為替感応度 (概算) : 対USドル1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益8億円/年の減益 (増益)

*2015年5月公表 中期経営計画「MGC Advance 2017」より

設備投資・株主還元状況

<設備投資>

【単位：億円】

設備投資	2015年度	2016年度	2017年度予想
天然ガス系化学品	53	90	80
芳香族化学品	106	105	140
機能化学品	99	81	135
特殊機能材	38	66	30
その他	7	5	35
計	305	350	420

<株主還元>

➤2016年度

中間配当（実績）：16円/株

期末配当（予想）：22円/株

年間配当（予想）：38円/株（前期比 6円/株の増配）、配当性向：17.2%

自己株式取得（2016年5月、1,000万株、発行済株式数の2%）

➤2017年度（予想）

中間配当：22円/株

期末配当：22円/株

年間配当：44円/株（前期比 6円/株の増配）、配当性向：22.1%

*本資料の配当金は、2016年10月1日の株式併合実施後の株式数を基に表示しております。

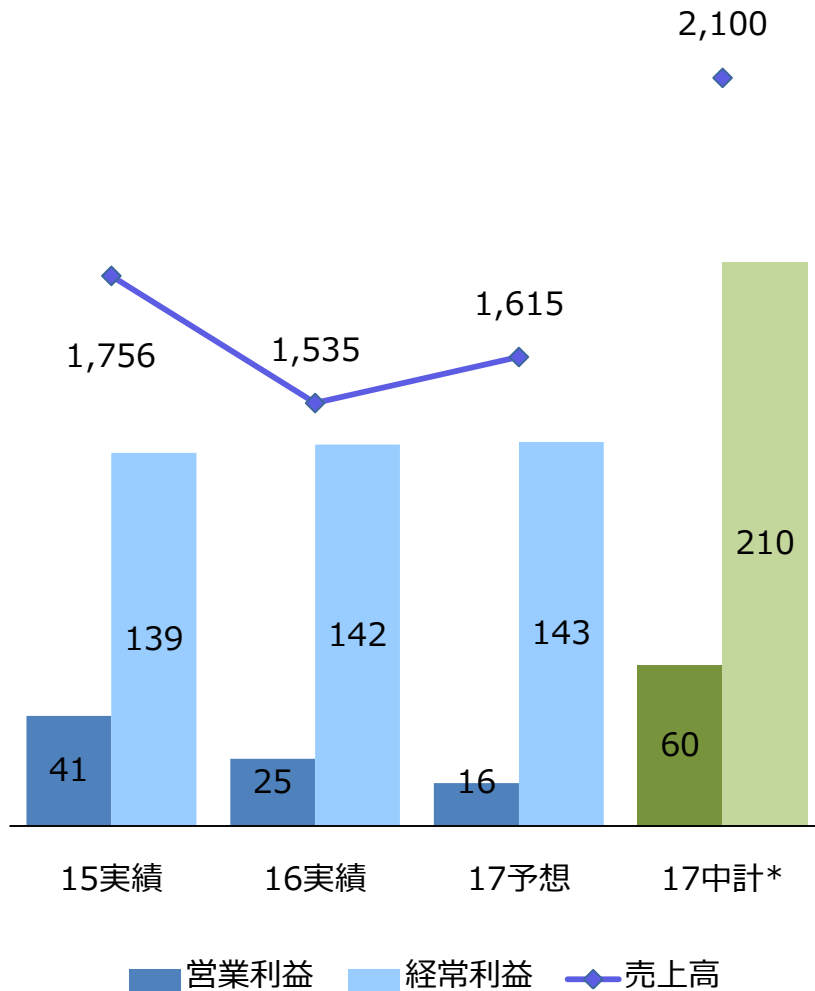
セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

【単位：億円】

	15実績			16実績			17予想			17中計
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
売上高	3,002	2,932	5,935	2,679	2,885	5,564	2,800	3,000	5,800	7,000
天然ガス系化学品	928	828	1,756	701	834	1,535	772	843	1,615	2,100
芳香族化学品	1,050	1,008	2,058	955	989	1,944	1,025	1,072	2,098	2,400
機能化学品	827	875	1,702	835	886	1,722	853	885	1,739	2,000
特殊機能材	264	288	552	248	253	502	227	270	498	700
全社/調整	▲ 68	▲ 67	▲ 135	▲ 61	▲ 78	▲ 139	▲ 78	▲ 72	▲ 151	▲ 200
営業利益	153	186	340	192	244	437	180	190	370	400
天然ガス系化学品	21	19	41	3	21	25	1	15	16	60
芳香族化学品	77	74	152	90	92	183	95	87	183	160
機能化学品	56	74	130	96	120	216	83	81	164	120
特殊機能材	11	29	40	20	27	48	20	26	46	60
全社/調整	▲ 14	▲ 10	▲ 24	▲ 19	▲ 16	▲ 36	▲ 20	▲ 20	▲ 41	0
経常利益	211	243	454	246	377	623	270	280	550	550
天然ガス系化学品	77	61	139	39	103	142	64	78	143	210
芳香族化学品	71	65	137	85	89	175	91	82	173	150
機能化学品	58	97	155	114	153	268	101	100	201	130
特殊機能材	8	29	38	27	34	61	27	32	59	60
全社/調整	▲ 4	▲ 12	▲ 16	▲ 19	▲ 4	▲ 24	▲ 14	▲ 14	▲ 28	0

天然ガス系化学品

【単位：億円】



2016年度 実績

- メタノール販売価格の下落や円高等により減収、営業利益は減少。
- 下期に入りメタノール価格が上昇し、持分法利益が増加。経常利益は前年並み。

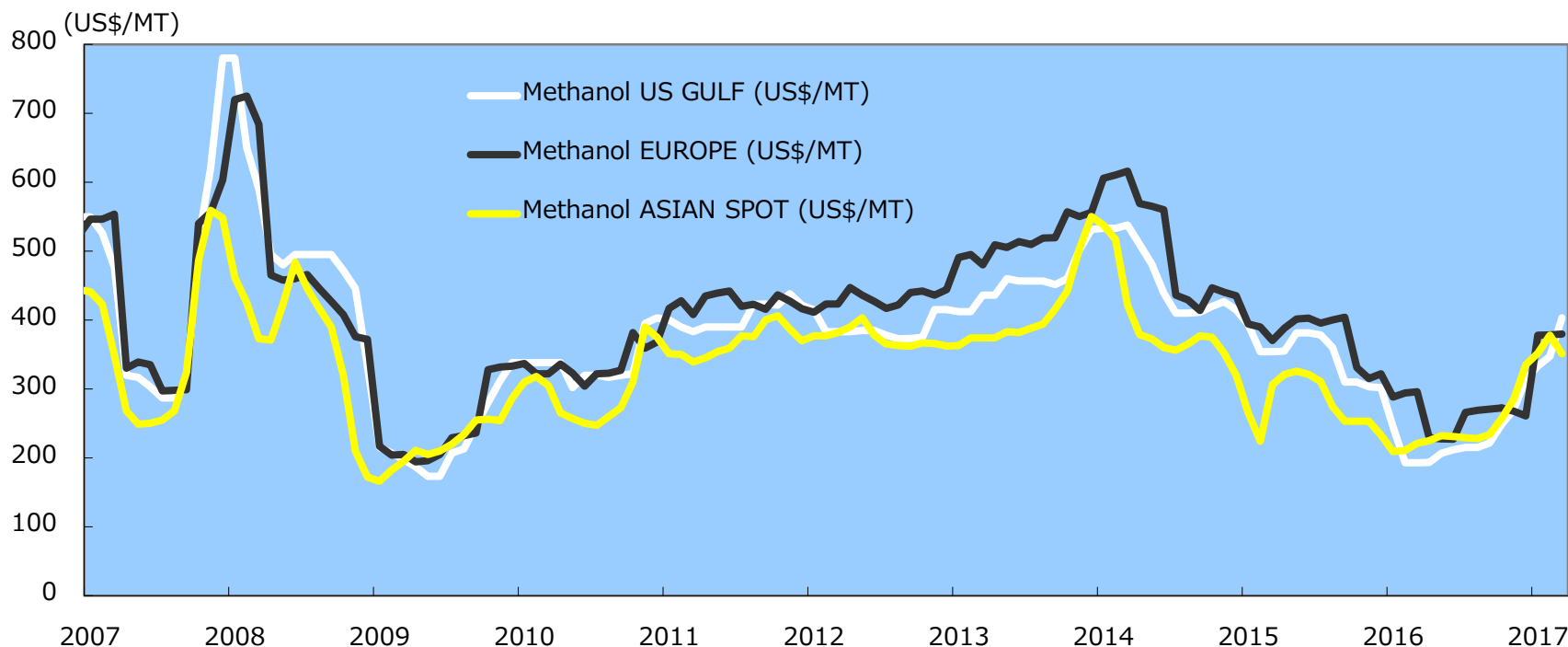
2017年度 予想

- メタノール市況は前年比上昇を見込む。（16年度実績：278ドル/MT→17年度予想：315ドル/MT）
- メタノール市況は上昇を見込むものの、ブルネイでの定期修繕もあり、持分法利益は前年並みの水準を予想。経常利益も前年並みとなる見通し。

*2015年5月公表
中期経営計画「MGC Advance 2017」より

天然ガス系化学品 メタノール市況の動向

メタノール価格の推移



2016年度 実績

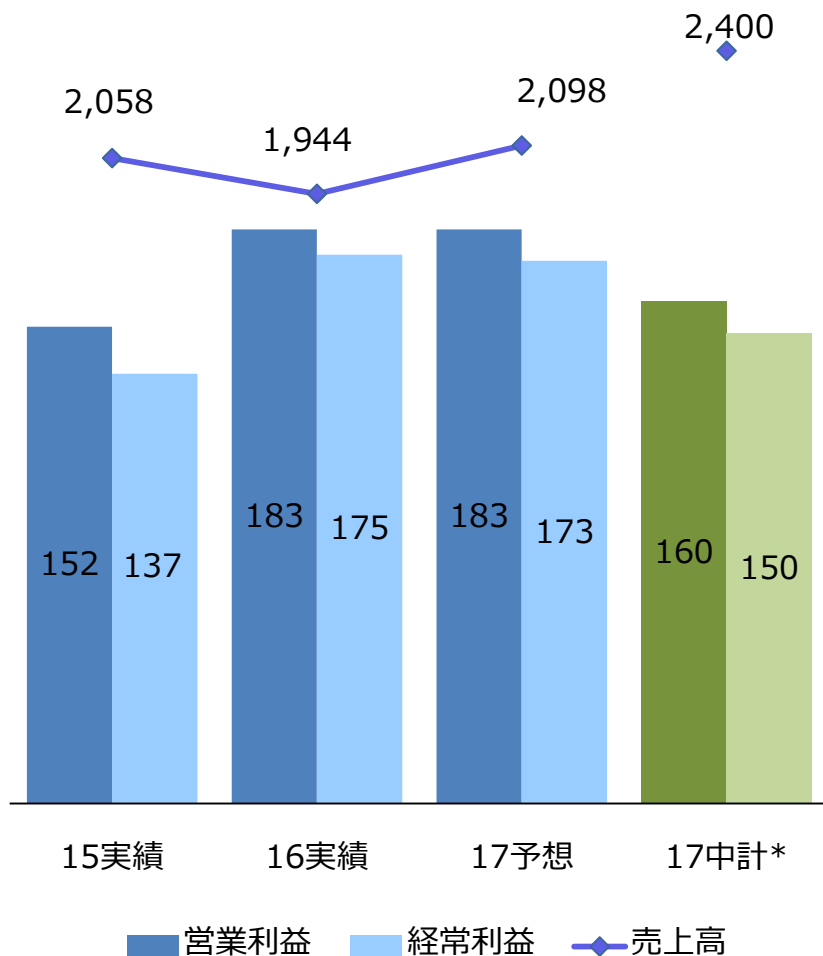
上期のメタノール価格（アジアスポット平均）は230\$/MT程度で推移していたが、下期に入り中国の石炭価格が上昇したことに加え、新規MTO(※)プラントの稼働開始もあり、2月には370\$/MTを超える水準まで上昇した。3月に入ると需給バランスは緩和し、3月末では300～330\$/MTの水準まで下落した。

2017年度 及び今後の見通し

引き続き中国MTO用途が需要を牽引していく見通し。上期は325\$/MTの水準で推移するものと想定。下期は米国及びイランでのプラント増設が見込まれており、需給バランスが緩和し、305\$/MT程度での推移を見込んでいる。

芳香族化学品

【単位：億円】



2016年度 実績

- 高純度テレフタル酸の販売終了や円高などにより、売上高は減少。
- MXDA・MXナイロンは、円高の影響があるものの、販売数量は堅調に推移。
- 高純度イソフタル酸(PIA)の採算改善や発泡プラスチック(JSP)で付加価値の高い製品の販売が好調であったことなどから、営業利益が増加。

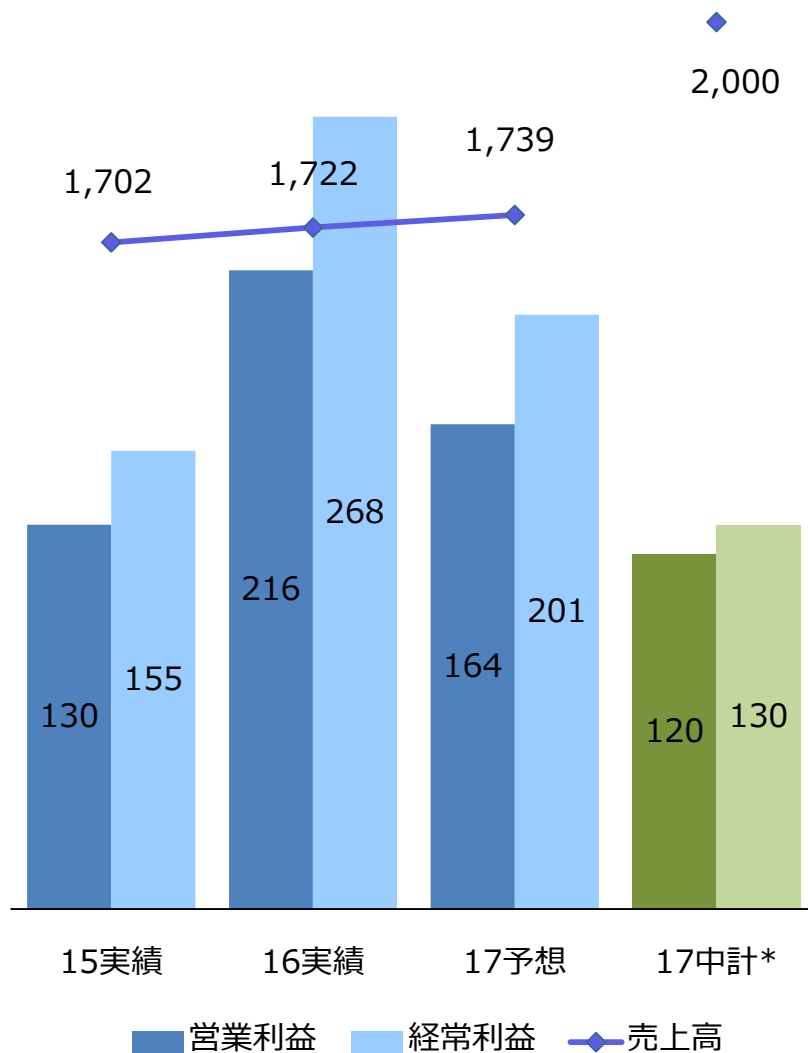
2017年度 予想

- MXDA・MXナイロンの販売数量は引き続き堅調に推移する見通し。
- 2017年3月末に、MX生産装置を再稼働。MXの販売数量増加を見込む。PIAのスプレッドは16年度に比べ縮小を予想。
- JSPは、原燃料価格の上昇があるものの、海外事業、高付加価値品の伸長等を見込み、概ね前期並みの損益を予想。

*2015年5月公表
中期経営計画「MGC Advance 2017」より

機能化学品

【単位：億円】



2016年度 実績

- 無機化学品は、原燃料価格の下落があったものの、円高に加え、液晶・半導体向け薬液の販売数量が減少したこともあり、減収減益。
- ポリカーボネート(PC)-ビスフェノールA (BPA)スプレッドは、年間を通じて高水準で推移。エンジニアリングプラスチックは、販売数量の増加もあり、大幅な増益。
- PC・ポリアセタール(POM)関係の持分法利益が増加し、経常利益も増加。

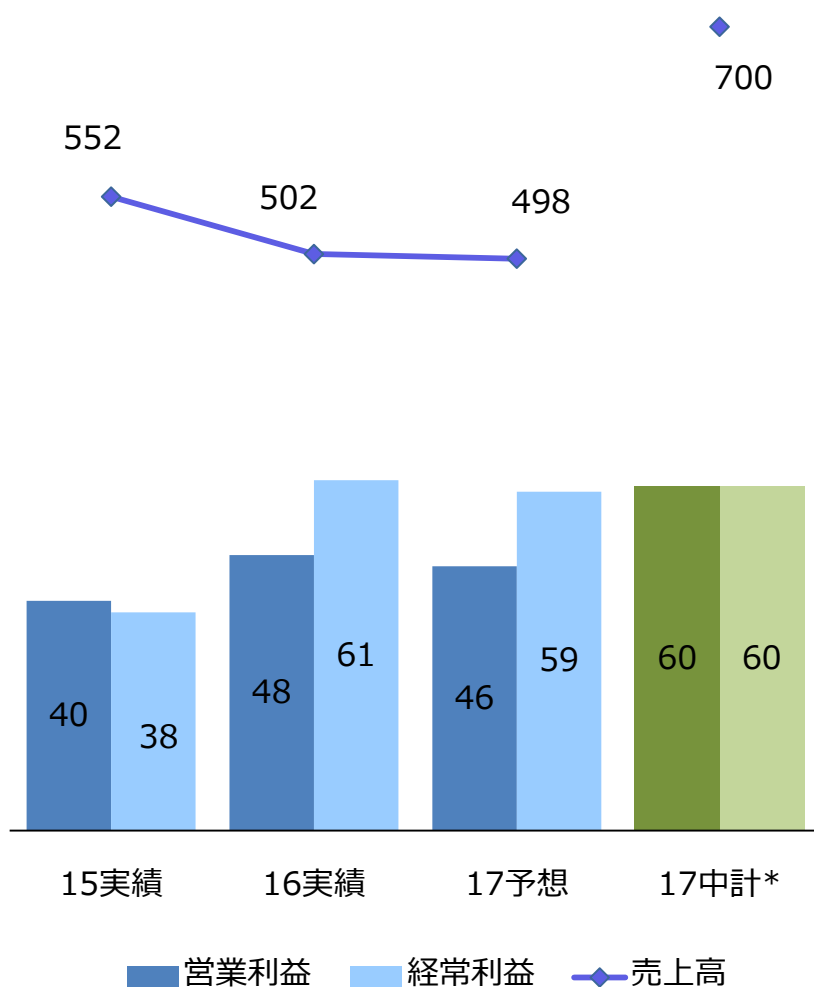
2017年度 予想

- 無機化学品は、米国・台湾を中心としたエレクトロニクスケミカル事業の競合環境激化等により、減益を予想。
- PC-BPAスプレッドは、16年度に比べ縮小を予想。
- モバイルカメラレンズ向け特殊PCの販売数量増加を見込む。
- POMは、原材料費の上昇や中国におけるアンチダンピング発動リスクを織り込み、減益を予想。

*2015年5月公表
中期経営計画「MGC Advance 2017」より

特殊機能材

【単位：億円】



2016年度 実績

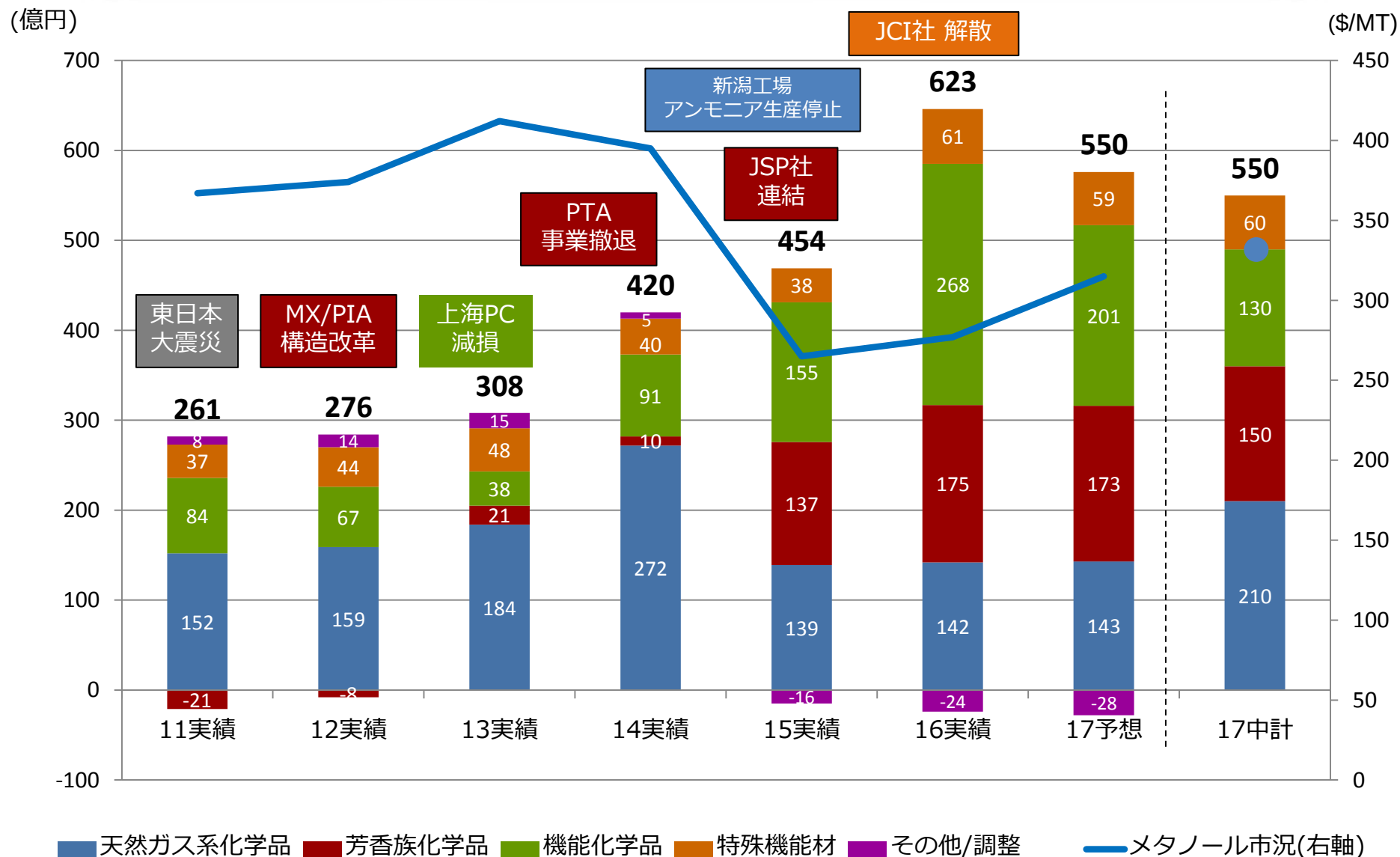
- 電子材料は、BT材料の販売数量が実需に見合った水準まで回復。メモリー分野も好調であり、増益。
- 日本サーキット工業(株) (JCI) は2016年9月末で解散。
- 脱酸素剤は、国内食品用途向けは堅調も、円高により損益は前年同期をやや下回る。
- 16年度より、新たに2社が持分法適用。

2017年度 予想

- BT材料は、引き続きメモリー向けの需要が高水準で推移する見通し。販売数量増を見込むが、研究開発費の増加や原材料費の上昇等も見込まれ、減益を予想。
- 脱酸素剤は、国内食品用途が堅調に推移する見通し。海外での採用拡大も見込み、増収増益を予想。

*2015年5月公表
中期経営計画「MGC Advance 2017」より

セグメント別 経常利益推移 ～構造改革を経て、収益体質を強化～



2017年度 収益力強化に向けた主な取り組み

セグメント	2017年度の主な取り組み(予定)
天然ガス系化学品	➤ メタノール：トリニダード・トバゴ計画の推進（2019年春に商業運転開始予定）、新潟工場に設置したパイロットプラントの活用。 ➤ メタクリル酸グリシジル(GMA)の増強（2017年9月完工予定）
芳香族化学品	➤ MXDA/MXナイロン：テクニカルサービス等により既存用途を伸ばすとともに、新規分野での開拓を進める。 ➤ 発泡体（JSP）：自動車向け部材のグローバルな拡大、国内での付加価値の高い製品の拡販。
機能化学品	➤ EL薬品：厳しい競争環境下、グローバル体制をより一層強化し、顧客対応力を更に高める。 ➤ PC：高付加価値品の開発、販売に注力。特殊PCは、高屈折率を有する新規グレード品の拡販を進める。
特殊機能材	➤ 電子材料：汎用的な領域での販売量を増やすとともに、5GやIoTなどの新規市場の開拓を進める。 ➤ エーゲレス：QOLイノベーションセンター白河の新工場稼働により、供給体制を強化する。併せて、海外市場の開拓を進める。

構造改革を経て収益体質は強化されており、中核事業を中心に収益力を更に高めていく。また、中期経営計画で示した新規事業領域（次ページ）にも経営資源を投下し、事業化を図る。

今後の進むべき事業領域

	エネルギー	情報・通信	モビリティ	医・食	インフラ
新規事業	低環境負荷燃料 科学的な備蓄	次世代情報デバイス向け光学材料 半導体下層膜材料 透明ポリイミド ポリイミド：有機ELディスプレイ前面板等にワーク中	新規構造材 次世代電池 新規構造材：透明・耐熱材料の事業化に向け進捗中 次世代電池：LiBH4系固体電解質の量産化技術を開発中	保存期間延長、新食品流通技術 酸素吸収樹脂 医療包材：医薬品用のバイアルやシリンジ向け多層プラスチック容器の開発を推進	劣化診断薬 迅速内部診断技術
既存事業	メタノール シェールガス・LNG 地熱	ポリカーボネート EL薬品 BT系製品	MXナイロン ポリアセタール 発泡プラスチック	脱酸素剤	MXDA 1,3-BAC

※中期経営計画「MGC Advance 2017」 参考資料より

※赤字は現時点における新規事業開発の取り組み事例

新規事業開発の取り組み

新規事業開発の取り組み事例

透明ポリイミド (ネオプリム)	強みである透明性、耐熱性等を活かし、フレキシブル有機ELディスプレイ前面板等にワーク中。
新規構造材	モノマーからポリマーまで一貫して開発を進め、透明・耐熱材料の事業化に向け進捗中。
次世代電池材料	LiBH ₄ 系固体電解質の量産化技術を開発中。
医療包材	医薬品用のバイアルやシリンジ向け多層プラスチック容器の開発を推進、サンプルの提供を進めている。

<外部機関との連携強化>

2015年4月に設置した新規事業開発部を中心に、国内外の大学、研究機関、ベンチャー企業との共同研究を推進中。



ネオプリム



医療包材（バイアル）



医療包材（シリンジ）

参考：各種指標（1）

1.各種指標推移（連結）

【単位：億円】

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017(予)
設備投資額 (上期)	351 (193)	276 (141)	354 (146)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	420 (180)
減価償却費 (上期)	289 (135)	295 (137)	290 (138)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (130)
研究開発費 (上期)	147 (67)	162 (74)	164 (74)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (92)	210 (105)
年度末人員(人)	4,902	4,920	4,979	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,224
一株当たり当期 純利益(円/株)*	31	26	84	55	▲35	66	192	154	222	199
総資産経常利益 率(%)	1.2	1.4	6.5	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	7.2
自己資本当期利 益率(%)	2.5	2.2	6.9	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	11.9	9.7
配当金(円/株)* (うち2Q末)	32.0 (16.0)	16.0 (8.0)	16.0 (8.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	44.0 (22.0)

*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

参考：各種指標（2）

2. セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

【単位：億円】

年度		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017(予)
設備投資額	天然ガス系化学品	107	71	140	139	63	45	57	53	90	80
	芳香族化学品	106	77	45	47	57	23	40	106	105	140
	機能化学品	91	81	148	216	150	112	76	99	81	135
	特殊機能材	47	45	18	18	33	66	43	38	66	30
	その他	0	1	3	1	3	5	3	7	5	35
	合計	351	276	354	424	309	254	222	305	350	420
減価償却費	天然ガス系化学品	64	75	86	77	62	63	69	61	50	51
	芳香族化学品	77	79	78	77	58	41	39	82	85	90
	機能化学品	97	86	80	84	77	95	92	88	86	90
	特殊機能材	51	51	42	35	27	31	33	30	30	37
	その他	0	4	4	3	3	3	3	3	3	2
	合計	289	295	290	277	230	235	237	267	256	270

参考：各種指標（3）

3. 業績前提

	2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
メタノール (US\$/MT)	195	246	283	307	349	385	385	364	375	449
原料キシレン (US\$/MT)	770	870	830	1,050	1,260	1,280	1,190	1,320	1,230	1,160
ビスフェノールA (US\$/MT)	1,000 ～1,300	1,200 ～1,700	1,800 ～2,100	2,100 ～2,500	2,000 ～2,500	1,400 ～1,800	1,500 ～1,800	1,600 ～2,000	1,550 ～1,800	1,550 ～1,700
ポリカーボネート (US\$/MT)	1,900 ～2,400	2,400 ～2,900	2,450 ～2,950	2,400 ～2,900	2,800 ～3,000	2,600 ～2,900	2,500 ～2,800	2,500 ～2,800	2,400 ～2,600	2,400 ～2,600
為替(JPY/USD)	96	90	89	82	80	78	79	87	99	102

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度 (予想)	備考
	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
メタノール (US\$/MT)	432	358	301	230	230	327	315	アジアスポット平均 価格
原料キシレン (US\$/MT)	1,100	730	740	630	660	680	690	スポット価格 (FOB-Korea)
ビスフェノールA (US\$/MT)	1,600 ～2,000	1,200 ～1,900	950 ～1,500	850 ～1,100	1,000 ～1,200	1,000 ～1,400	900 ～1,300	主要平均CIF価格
ポリカーボネート (US\$/MT)	2,500 ～2,700	2,300 ～2,700	2,100 ～2,650	2,000 ～2,400	2,200 ～2,500	2,400 ～2,800	2,100 ～2,500	
為替(JPY/USD)	103	117	122	118	105	112	110	

※メタノールについては、2014年度まで、上期：1-6月、下期：7-12月の価格を表記しております。

2015年度以降は、上期：4-9月、下期は：10-3月の価格予想を表記しております。

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報 I R 部

T E L 0 3 - 3 2 8 3 - 5 0 4 1

<http://www.mgc.co.jp/>

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。